石巻専修大学
「石巻専修大学」ホームページ https://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/

石巻専修大学
広報係
〒986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
☎0225-22-7717（直）

最新の情報は大学HPで。

カーナビで石巻の魅力発信

牡鹿半島 道の駅 巡る2コース考案

経営・庄子ゼミ

記者発表会でコースの概要を説明する阿部さん

経営学部経営学科の庄子真岐ゼミ生が、一般社団法人日本カーシェアリング協会が貸し出す観光案内機能付きカーナビ（観光ナビ）に搭載する、石巻のおすすめドライブコースを考案した。

レンタカー事業を手がける同協会が「多くの人に石巻の魅力を知ってもらいたい」と、観光やまちづくりを学ぶ庄子ゼミにコースの作成を依頼。ゼミ生たちは数カ月かけて調査や試走を行い、「石巻・女川　道の駅巡り旅」「牡鹿半島・リボーンアートを巡る旅～石巻の海を添えて～」の2コースを作成した。学生目線を重視し、観光ナビの音声案内文も考えた。

タブレットの設置例

10月5日には、各コースの概要やコンセプトなどを紹介する記者発表会が本学で行われた。

「牡鹿半島・リボーンアートを巡る旅」は、高大産連携の一環で庄子ゼミが関わってきたリボーンアート・フェスティバルの会場を巡る。地域の食材やおすすめスポットの情報も盛り込み、総距離85キロ、所要6時間の旅程を最後まで飽きさせないように工夫した。大槻晃弘さん（人間4・宮城県石巻北高）は「作品と雄大な景色を同時に楽しんでもらいたい」とコースの魅力を伝えた。

「石巻・女川　道の駅巡り旅」は家族連れをターゲットに設定。雄勝や女川などの各道の駅を回り、買い物や食事、温泉などが楽しめる。利用時間に合わせて、コースのカスタマイズも可能。阿部美奈さん（経営4・宮城県松島高）は「レンタカー利用者を分析し、ターゲットと目的を決めた。観光客はもちろん、地元の人にもぜひ利用してほしい」と話す。

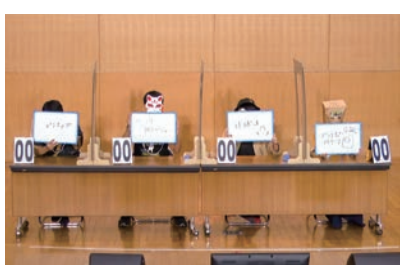
2コースの情報を取り込んだ観光ナビの貸し出しは10月6日に始まった。庄子ゼミでは新コースの作成も予定しており、実践的な学びを通じて、観光資源の発信手法やICTの活用について理解を深めていく。

石鳳祭

「Rebooot」テーマにハイブリッド方式で開催

10月9日、「2021石鳳祭」が開催された。今年は「Rebooot」をテーマに、オンラインと対面のハイブリッド方式で、入場人数を制限した会場で行われ、その模様をオンラインで配信。学生たちは「石鳳祭クイズ王決戦！」「ゆるキャラといっしょ♪でもゆるくない!?」ジェスチャーゲーム」などの学生企画、人気声優によるトークショーなどを楽しんだ。

いしぴょんやセンディとのジェスチャーゲーム



石鳳祭クイズ王の栄冠を目指し、難問に答える出場者たち

皆さんの参加に感謝

石鳳祭実行委員長　鈴木 ほのか（理工3・福島県会津高）

実行委員の仲間と。中央が鈴木委員長

コロナ禍で不安だったが、無事に開催することができて良かった。企画はオンラインと対面の「良いとこどり」を意識。なかでもゲストを迎えての企画は、何としても実施したかったので、多くの方に来場・視聴していただくことができてうれしい。

対面での活動が難しいなか、約50人の実行委員が情報を共有し、作業を進めるのは大変だったが、みんなの努力で、思い出に残る大学祭になった。

共創研究センター・プロジェクト事業

9教員が研究成果を発表

共創研究センター「プロジェクト事業」の研究成果報告会が9月17日、本学で開かれた。

自治体や企業と連携し、石巻地域の持続的発展や課題解決に取り組んでいる9人の教員が2020年度に行った研究活動の成果を発表。一般聴講者や大学関係者など約80人が熱心に耳を傾けた。

ロードキルの実情と対策を報告した辻准教授の発表

理工学部生物科学科の辻大和准教授は、石巻圏内における野生動物のロードキル（道路上で起こる死亡事故）に関する調査結果を報告した。石巻市で昨年度記録されたロードキル1014件のうち、タヌキ、ネコ、シカが約75％を占めたと説明。シカの事故は牡鹿半島に集中しており、対策として「看板設置などが必要で、今後、市に提案したい」と語った。

経営学部経営学科の李東勲教授のテーマは「石巻圏域の特産品・海苔の知名度を向上させるための実証的研究」。家庭での魚介類の消費は落ち込んでおり、海苔について「商品価値が薄れている」「約200年間食べ方が変わっていない」などの要因を指摘。新しい発想による新商品開発の必要性を説き、具体的な取り組みとして、海苔の栄養素に梅を加えることで美容効果を高める「梅海苔ペースト」の商品化を進め、11月下旬に販売を予定していることを報告した。

「杜の都駅伝」出場決定

女子競走部　4年連続6回目

第39回全日本大学女子駅伝対校選手権大会（杜の都駅伝＝宮城県仙台市、10月31日、12時10分スタート）の東北地区代表選考会が9月27日、岩手県の北上総合運動公園で行われた。女子競走部が1時間58分4秒の記録で2位。オープン参加となった昨年を含め、4年連続6回目となる杜の都駅伝出場を決めた。

選考会は3人1組の駅伝方式で、2チームの合計タイムを競う。本学からは、千葉彩有花さん（人間4・宮城県常盤木学園高）▽齋藤凜さん（経営3・宮城県聖和学園高）▽フォックス真島新菜さん（経営2・青森県八戸学院光星高）▽長谷川日菜さん（人間2・青森県弘前学院聖愛高）▽髙橋里奈さん（人間1・秋田県大曲高）▽伊藤千尋さん（経営1・宮城県柴田高）が出場し、好走した。

真島さんから齋藤さんにリレー

杜の都駅伝に向け、主将の千葉さんは「東日本大震災から10年がたち、復興半ばの被災地に、東北代表として勇気や元気を届ける走りをしたい。全員で一つでも上の順位を目指します」と話した。

研究室探訪

人間の言語獲得過程を探る

人間学部人間文化学科　長谷川 香子教授
HASEGAWA KYOKO

私の専門は言語学で、生成文法理論における生得的言語知識（普遍文法）と言語獲得について研究をしています。

生成文法は、人間の言語能力は脳の生得的な性質に由来し、人間は初期状態である普遍文法を生得的に備えていると仮定します。そして、理論の目標を個別言語の妥当な理論構築と普遍文法から個別言語への遷移を明らかにすることと設定しています。近年、生成文法は生物的研究を基盤とした認知科学分野において、言語に関する認知システムとしての脳機能と脳内メカニズムの研究が急速に進み、生成文法の仮定を裏付けようとしています。現在、私は個別言語の使用と現象について認知的分析を通しながら、普遍文法と人間の言語獲得過程について研究を進めています。

また、幼少時の言語獲得初期の脳神経回路と脳内メカニズムについて、バイリンガルの言語使用と言語現象に関する先行研究とフィールド調査を通しながら研究を行っています。

ゼミでは、「言語学研究」と「異文化研究」の二つの研究領域の中から、ゼミ生は自分の興味のある研究領域を選択し、研究テーマを決めます。

「言語学研究」では、音韻論、形態論、統語論、意味論、及び、認知言語学、語用論の知識を深めながら、個別言語の言語使用と言語現象、言語特性、言語学理論について研究します。「異文化研究」では、国内外特定地域の伝統文化や生活様式、または、近代サブカルチャーの特質や行動様式、価値観、社会構造の変化などについて研究を行い、さらに、異文化間の相互理解のための手立てについて研究します。

長谷川教授（右）とゼミ生